



産学公連携コーディネータに聞く

中小企業の技術開発や製品開発の過程でさまざまなサポートをする都産技研の「産学公連携コーディネータ」。日頃受ける相談や、サポート内容の実際をご紹介します。

島田 文生 コーディネータ

多摩テクノプラザ

中小企業のコア技術を生かし、価値を高め、その方向に導くのがコーディネータの役目



Profile

東京工業大学大学院卒業後、小西六写真工業(現コニカミノルタ)に入社。X線画像のデジタル化に取り組み、コニカミノルタのCR、世界初のPCMシステムの実用化に携わる。2005年からは技術戦略策定を担当。2010年退職後、都産技研のCDに。

島田CDの担当曜日
毎週火曜日9時～17時

特に専門としている分野はないのですが、強いて言えば技術経営でしょうか。なるべくコストをかけずに中小企業を経営面からサポートしたいと考えています。中小企業にとっては、コストパフォーマンスのよさは重要です。

今までに受けた相談は、環境、材料、医療機器、太陽電池、ソフトウェアなど多岐に渡りますが、私のコーディネート切り口としていつもお話しするのは「御社のコア技術や得意分野は何ですか?」ということです。すばらしいコア技術があることに気がついていないという場合が意外と多いと感じています。

今後の中小企業は、単にものづくりだけでなく、いかに価値をつくっていくかが重要になってくるでしょう。企業の強みを把握して、複数の企業・大学・公的機関の団体の強みと融合させ、「新たな価値創造—ものづくり—」と「価値獲得

—価値づくり—」に努力していかななくては、これからの成長は望めないでしょう。

そして価値づくりには、産産連携を促進する場やファシリテータが必要だと思うのです。お互いのコア技術を生かし合い、価値を高めていくための方向づけをし、導くのが私たち産学公連携コーディネータの役割だと思っています。

産学公連携コーディネータとして、新しい価値をつくっていくお手伝いができることは、私自身、とてもやり甲斐を感じていますね。だからどんな相談でも引き受けてしまうんです(笑)。

今後は、まだ世に出ていない製品を広めるためのコーディネートもしていきたい。グリーンやライフなどの分野に可能性を感じますが、そのためにも産学公の力を一層結集していきたいと思っています。

●事例紹介

日本メディカルファンド(株)の場合【産産連携の例】

日本メディカルファンド(株)は、米国の製品である夜尿症センサー「ウェットストップ」を輸入販売していますが、この製品のRJ11モジュラーに不良があるにもかかわらず、米国の製造元は何も対処しないまま、数年が経っていました。そこで、日本だけでも何とかしようということになり、具体的な対策を求めて島田CDに相談を持ちかけました。

相談→共同研究までの経緯

- 平成22年12月 日本メディカルファンド(株)から島田CDに、RJ11モジュラーが爪折れを起こす不良を解消するための対策について相談。
- 平成23年 2月 島田CD、特殊コネクタの専門メーカーである(株)ヒサワ技研に相談。
- 平成23年 3月 (株)ヒサワ技研、カバーをつけるなど試行錯誤の末、爪の先を丸める改良を施す。
- その結果、不良発生が100分の1以下に減少。



島田 CD 医療分野での製品開発や大学との共同研究を多数行ってきた経験を生かして、具体的なアドバイスも行います。

Message 中小企業の皆さんへ



従来のような大企業の下請けだけではなく、これからは中小企業が目的を持って新しいもの、価値をつくっていく時代ですから、新規事業を始めたいと思っている中小企業の方々のお手伝いをしたいと思っています。

都産技研のコンサルティングは無料ですので、心強い存在になれると思います。「自社にはどんなコア技術があるのか」「どの点を磨いていったらいいか」といったご相談から、人の手当、資金、あるいは「会社案内をつくりたい」というご相談まで、何でも受け付けていますので、気後れせずに相談にいらしてください。お待ちしております。